



評議員会で挨拶する井上和子評議員長。映画『FOUJITA』も成功裡に進んだことも報告された



「次年度は、様々な意味で日本友愛協会の転機となる年でしょう」と挨拶。鳩山由紀夫理事長



鳩山由紀夫理事長は資料を手に、報告。今後も皆様方のご協力を仰ぎたいと述べた



新しい評議員小峰秀子さん（写真左奥）にとって初めての評議員会。顔なじみに囲まれて和やかに

＝＝＝ 日本友愛協会 平成28年度 事業計画（抜粋） ＝＝＝

【継続事業の部】

〈1〉友愛山荘 運営事業

①ゼミ・研修会・親睦会・合宿等の利用に適した緑溢れる施設を安価な利用料金で提供する。②施設内に「友愛」に関する資料コーナーを設置し、施設利用者に公開する。③山荘利用手続の機会を利用し、友愛活動の普及につとめる。④ロビー及び客室に、国際交流事業実施の際贈られた絵、額等を展示し、日本友愛協会の活動を知らしめる。⑤友愛ホールの一般貸出を行い、広く日本友愛協会を知らしめる。

〈2〉情報等発信事業

①機関誌『友愛』の発行・配布。②リーフレット『友愛とは』の作成・配布 ③本協会ホームページの管理・更新 ④「私にとって友愛とは」冊子の配布

＊27年度に実施した「北京理工大学に於ける友愛講演会」に参加した学生から寄せられた感想文を日本語・中国語併記した冊子を作成し、植林訪中等の機会を利用して配布する。＊同上感想文の日本語版のみの冊子を作成し、友愛山荘を利用した方々及び学生等に配布する。

〈3〉国際交流事業

①派遣事業 ＊本協会より派遣事業の目的に適う人材を海外に派遣する。＊外国人との交流や現地における歴史・文化の体験を契機とする国際感覚を養う機会を提供する。＊海外における「友愛」の理念を紹介する機会となることを目途とする。＊中国における友愛植林活動の成果を確認する。また、中国において、「友愛」の理念を具体的に発表し「私にとって友愛とは」の小冊子の配布等を行う。

②受入事業 ＊日本人との交流や日本文化の紹介等を通じて国際交流の場を提供し、ひいては「友愛」について紹介する機会を設ける。本協会が長年にわたって培ってきた国際交流事業の経験を生かし個性的な体験プログラムを企画し、特に本協会の友愛活動・平和活動に関する知識を習得出来るように努める。

いられる。何の院策うレ九は「本に「グと「高「度外「留「生「を「増「や「し「る「こ「は「国「策「と「し「て「必「要「で「は「あ「る「う「。「し「か「し「、「学「生「の「の「割「以「上「が「中「国「人「で「彼「ら「の「レ「ベ「ル「に「合「わ「せ「た「教「育「を「行「う「と「い「う「よ「う「な「安「易「な「解「決「策「を「採「っ「て「い「る「学「科「や「大「学「院「を「見「る「と「、「い「っ「た「い「誰「の「の「た「め「に「税「金「を「投「入「し「て「い「ら「れ「な「い「。」「（ヒゲ）

平成二十八年三月三〇日（水）午前十一時より友愛サロンに於いて、第十一回臨時評議員会が開催され、平成二十八年度事業計画並びに予算が承認された。評議員会開催前の午前十時より開かれていた第四十六回理事会に出席した理事長を始め全理事、監事も出席し、事業計画・事業予算案の内容を報告した。これを受けて評議員会では各内容を協議し、全会一致で可決、承認された。任期満了に伴い、改選された（八名の内七名は再任）評議員が初めて一同に会した。

冒頭井上和子評議員長は、「皆様方の協力を得て順調に事業が進んでおります。今後もしもよりよく協力ください。」と挨拶した。また、昨年制作した映画『FOUJITA』にもふれ、「皆さまのおかげで成功裡に事が進みました」と報告した。

続いて鳩山由紀夫理事長が挨拶に立ち、「次年度は経済的な見地から、友愛山荘の土地の売却などが検討されております。当然友愛山荘の運営事業が続いて行かれるよう、私が購入を検討しております。その他、事業運営方針からも、日本友愛協会にとつて決断を迫られる年となるでしょう。益々のご協力をお願いします」と述べた。

平成二十八年度事業計画、事業予算に關しての資料は、事前に配布され、全評議員が目を通して、このころ、大きな項目についての解説・報告がなされ、引き続き協議に入った。

協議を終了し、承認を求めたところ、全会一致で、事業計画・事業予算共に承認された。

任期満了に伴う改選で、新たに就任した小峰秀子評議員は、初の評議員会出席で全員にその旨紹介された。評議員会終了後、緊張しました。でも皆さんお顔馴染みの方なので助かりました」と感想を語った。

平成二十七年第十一回臨時評議員会開催 在北京の大学に於ける「友愛講演会」・ベトナムへの車椅子贈呈事業など定着 平成二十八年度事業計画・事業予算決まる 「友愛」を国外で語る貴重な機会 既植林地視察で育成確認などを実施



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

（一財）日本友愛協会

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文天ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaikyokai.com

http://yuaikyokai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

受入事業その1／ミャンマー指導者育成プロジェクト

受入事業その2／OJAB派遣員受入れ

＊京都・広島（広島平和記念公園、世界遺産宮島）等研修旅行を実施する。＊当財団の創設者、鳩山一郎の核禁止の遺志を伝達するため、広島における平和記念資料館見学等、原爆に関する研修を組み入れる。

③交流事業

交流事業その1／友愛国際写真コンクールの実施

交流事業その2／北京市内大学に於ける「友愛」講演会実施

交流事業その3／ベトナムに車椅子を贈る事業の実施

＊ベトナム枯葉剤被害の子供たちに車椅子を贈り、活動の手助けをする。＊未来を担う子供たちの生活を支援する。

交流事業その4／パオ（ゲル）を展示する事業

＊モンゴル高原遊牧民の移動式住居の実物を展示し、実体験に供する。＊パオ（ゲル）通じて国際感覚を育み、異文化への理解を深める。

交流事業その5／来日交流・友好会議を開催する事業

＊来日された諸外国の方々と、友好的な交流の機会を設ける。＊諸外国の方々に、友愛の理念を伝え、広く友愛の普及を図る。

【その他事業の部】

〈1〉日中緑化交流基金による中国植林事業

日中緑化交流基金から植林事業経費の助成を受け、中国国内における環境保全に寄与する。中国側カウンターパートである中華全国青年連合会との協力事業とし、植林活動による環境保全と同時に日中友好という国際交流の場としても活用する。

（実施予定事業） ・平成28年度 日中青年遼寧省錦州市義県 第二期

・平成28年度 日中青年陝西省宝鸡市麟遊県 第二期

〈2〉他団体への協力事業

目的、活動を相互に理解出来るそれぞれの団体に対して協力する。

内容については、対象団体と協議する。

友愛時評

▼日本の学年歴では、四月に新学期が始まって間もなくGWの大型連休に入ってしまう。ようやく軌道に乗った学校生活もリセットしてしまおうで、「五月病」の要因とも指摘される。▼連休や祝日は教員泣かせでもある。筆者が学生の頃の大学教員といえば、かなり自由に「休講」を使っていたと思うが、現在では授業回数を確保するよう厳しいお達しが来ている。休みが入れば当然補講を入れなければならない。▼授業回数以外にも、筆者が教職についてからの大学は「数値目標」の達成項目が増える一方である。学力テストのように単純に点数で測定できるものはともかく、大学以降の高等教育では数値化になじまないものも多いと思うが、そんな言い訳は通用しない。▼数値化による弊害は様々な面で生じているが、その最たるものが「定員充足率」の過度な重視である。少子化が進む中、かつての学生定員を全ての大学が満たすのは無理な算術である。そこで定員を満たさない大学は二、三がけないものとして淘汰の対象にしようという論理である。もちろん生き残るためには各大学や教育機関は必死であり、人口が多い国からの留学生で穴埋めして数字を上げることが常態となっている。▼確かに「グローバル化」の中、日本に來る留学生を増やしたり「高度外国人材」を育成することは国策として必要ではある。しかし、学生の九割以上が中国人で彼らのレベルに合わせた教育を行うというような安易な解決策を採っている学科や大学院を見ると、いったい誰の何のために税金を投入しているんだろうと思わずにはいられない。（ヒゲ）

第二十七次友愛植林訪中団派遣 西の陝西省から北の遼寧省まで中国を二五〇〇キロ走 荒涼とした赤土の山に、成長を祈って苗を植える

四月九日から十四日の日程で、第二十七次友愛植林訪中団が派遣された。陝西省宝鸡市麟游県第一期事業、遼寧省錦州市義県第一期事業の二カ所での植林活動を終え、「友愛講演会」の感想文に対する奨学金授与式を行うべく北京に移動。北京理工大学で受賞者六名との再会を楽しんだ。鳩山由紀夫理事長は、西安交通大学での講演のため一足先に出発。訪中の全てを「日中友好の苗を植える」と題して寄せてくださったので写真と共に掲載致します。

日中友好の苗を植える

理事長 鳩山由紀夫

植林事業に出発

恒例の日本友愛協会の中国植林事業に今年も参加しました。

今年は実施時期の関係も

あって、青年たちは誰ひとり参加しませんでしたので、初回から連続して参加しています川手常務理事と羽中田事務局長、そして私ども夫婦の四名のみの訪中団で、平均年齢はゆうに七〇歳を超えていましたが、最高齢の川手理事の健脚にひたすら感心しながら、充実した日程を順調にこなすことができました。

毎年、前年度の植林事業を植林に適した時期を選ぶ関係で、新年度に入ってから行うことになっており、今回



「ここが空いてますよ」の呼びかけに、学生達は壇上に上がってきた。真摯な学習心が麗しい

西安交通大学名誉教授に私ども夫婦は植林事業に加わる三日前から西安に来

ていました。今年百二〇周年を迎える、中国で二番目に古い大学である西安交通大学から名誉教授のオファーがありまして、学生たちがたくお受けして、学生たちに講演を行い、西安は初めてでもありましたので、兵馬俑などの見学をしてまいりました。

交通大学と聞くと、交通想像していたよりもかなり精密に造られている兵士の像。大ききにも八千という数にも驚嘆する



美しい歴史の都西安の佇まい。初めて見る景色なのに、どこか懐かしい、歴史の重なりを感じる



工学を教える大学と勘違いしてしまいましたが、易経の「天地が交わって、而して万物通じるなり」に由来しているそうで、総合大学です。熱心な学生の姿勢 講演は四〇〇名位収容できる教室で行いましたが、六〇〇名ほど学生が集まり、中に入れないで溢れている学生たちが沢山いて、中には泣いている子もいたそうです。そこで、講演の冒頭で、「私の横の壇上が空いているので、みんな入っていらっしゃい」と手招きしましたら、どっと教室の壇上に集まって座ってくれました。私の講演は通訳を入れて一時間余りでしたが、学生たちはとても熱心に聞いてくれました。なん

でこんなに熱心に聞いてくれるのだらうか。このエネルギーは中国の今後の発展の原動力になるに違いないと感じた次第です。日本の学生にもこのエネルギーが欲しいと痛感しました。歴史のスケールに驚嘆 その夜、唐の時代を模した装束で、お城の入場式を披露してくれました。私ども夫婦が西安市長と一緒に先頭になって行進する儀式で、幸にはお城に入場する鍵を渡されました。お城へ

の入場後、舞踊団の踊りを満喫しました。

翌日は運動場に二万人を超える大学の関係者が集まって百二〇周年の慶祝記念式典が行われました。何事もスケールが違うと感じながら、午後に兵馬俑を見学し、その思いを更に強めた次第です。

始皇帝の陵墓を守る副葬品として埋葬された八千体ともいわれる素焼きの兵士像は今でも発掘途上のようにでしたが、復元の技術の素晴らしさは驚嘆に値するものでした。

宝鶏市の歴史にふれる 最初の植林地である宝鶏市は西安から、中国の尺度ではさほど遠くないとのこと、翌四月九日の夕刻に西安市のホテルで川手団長と合流いたしました。その夜は、今年も最初から最終まで行動を共にして下さる、洪桂梅全青連中国国際青年交流センター副主任方と再会を喜び合いながら、明日からの植林のことなどを肴に夕食を楽しみました。

一〇日は朝食を早々に済ませてから、全員が一台のバスに乗り、陝西省宝鶏市麟游県に向かいました。三時間余りで慈善寺に到着し、隋唐時代に作られた石

窟の仏像を拝見しました。石窟を削って作られた三体の、過去、現在、未来を象徴する仏像がそれぞれ厳しい、静かな、柔和なお顔をしており、さほど広くない洞窟の空間に良く三・五メートルの立派な石像が三休三メートルを超える石仏が、石の祠に。仏像の表情に見る厳しさ優しさが、心に深い感銘を与える



も作られたものだと感じました。続いて九成宮遺址を視察しました。ここは隋唐時代に皇帝の避暑地だったところで、当時は馬や輿に乗って一カ月かけて西安から来たそうです。太宗が建てた楷書の代表と言われる国宝の「九成宮醴泉銘」の説明を受けましたが、猫に小判状態でありました。いよいよ植林現場へ 昼食後に植林活動を行う現地に赴きました。道すがら麟游県は植林に力を入れているなど感じていました。したがって植林地はかなりの奥地になり、途中から舗装されていない道路を麟游県の植林現場での起工式。新しく道路を作り、かなり奥地まで進み、一帯の山々を植林する



寺の佇まいは、奈良の寺院を彷彿とさせる。遣唐使、遣隋使の時代にタイムスリップしたかのようだと

求められて「友愛」と墨蹟も鮮やかに揮毫を。奥様は落款用の篆刻を持参されていて完璧な仕上がり



「私は植林現場で、皆さんとお会いすることが生き甲斐です」と力強く挨拶。川手正一郎常務理事



走ることになりました。実際、帰りには、来る途中にはなかった砂利の山が道路のど真ん中に積まれており、暫くの間道路が封鎖されて待たされる結果となりました。本来道路工事中で通れない道を、特別に通し



集まったボランティアの青年たちも、頑張って苗を植える。彼等の心にも日中友好の苗が植えられた



集まった青年たち一人一人と握手を交わす鳩山由紀夫理事長。青年たちは感激して大騒ぎに





帰り道、植林現場から山を下ると、土砂で道が塞がれていた。とんだ出来事も、思い出の一つに



麟游県の植林に用いた松の苗。直径二センチ程、高さは八〇センチ。大きく太く元気に育て！



起工式には大勢の学生が参加。先ほどまで雨の中、屋外の会場で待っていてくれたのだ



急きょ室内で行われた義県の起工式。二十七回の植林訪中で初めて(雨天の場合も屋外であった)



小雨降りしきる中、まとわりつく泥にもめげず、元気に植樹活動を。一掘いすると中の土は乾いている



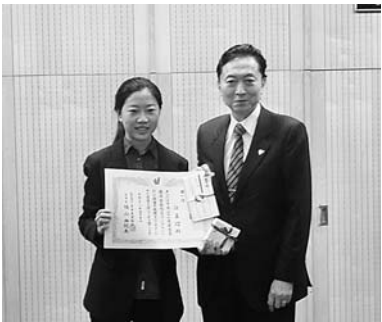
『私にとって友愛とは』の小冊子を手し、元氣溢れる笑顔を見せてくれた。理事長を囲んで



義県の植林現場。見渡す限り草木の気配がない。植えた苗が育ち、緑に覆われる日の来ることを！



設置され使われなかった式典会場で、せっかくだからと記念碑を背に記念撮影



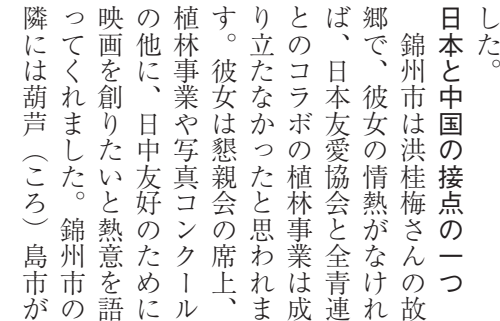
一位入賞の徐嘉熾さんと記念撮影。徐さんの受賞スピーチは、内容、発音、構成すべて完璧！



北京理工大学奨学金授与式で挨拶する嶋山由紀夫理事長。全ての作品が百点でしたと語った



受賞者全員と、北京理工大学周教授・郭教授、関係各位と共に記念撮影。初の事業は成功裡に終了



日本と中国の接点の一つ。錦州市は洪桂梅さんの故郷で、彼女の情熱がなければ、日本友愛協会と全青連とのコラボの植林事業は成り立たなかったと思われる。彼女は懇親会の席上、植林事業や写真コンクルの他に、日中友好のために映画を創りたいと熱意を語ってくれました。錦州市の隣には葫芦(ころ)島市が

ていただいたのだと、後で伺いました。

植林の現場は小高い山の斜面でした。そこには既にボランティアの子どもたちが整列して待っていてくれました。子どもたちには誰が来るかを事前に説明していませんでした。子どもたちには誰が来るかを事前に説明していませんでした。

けでなく、地域の代表方もお話しをしますで、なかなか短くならないものです。一考の余地がありそうです。

セレモニの後、山の斜面を登って植林を行いました。私は二〇本は植えること宣言していたのですが、六く七本のところで、もういいではないかとタオルが投げられ、目的を果たすことはできませんでした。

ている姿は気持ち良いものです。自然を大事にする環境に優しい人間に成長してくれるのではないかと期待しながら、彼らと短い時間でありましたが一緒に汗を流しました。

西安を離れ遼寧省へ

感があります。実は瀋陽の空港の待合室で、暫く待たされたのですが、その間に遼寧省青年連合会の趙紅巍主席から八段錦という太極拳のような健康法の体操を教わり、我が家では今でも毎日その体操を実践しています。待たされるのも悪いものではありません。

め、起工式のセレモニーは急きょ室内に切り替えられました。

大変なご迷惑をかけてしまったことを、誠に申し訳ない思いで講堂に辿り着いたのですが、不思議なことに大変に喜んでいただいたのでした。

るのもいがかかと思いい、無理にお願いをして、昼食後に現場に連れて行っていたことができました。一歩歩いたびに靴にへばりついた泥の重みが増して、歩行も困難な状態でしたが、現場には記念碑が用意されており、伺って良かったと思いいました。

＊『友愛』5月号に掲載の記事は、全て日本友愛協会のホームページでご覧いただけます。写真もカラーで掲載されておりますので、より楽しんでいただくことが出来ます。是非一度アクセスしてください。

＊『友愛』バックナンバーを始め、友愛活動の記録全ての詳細がご覧いただけます。 <http://yuaikyukai.com>

Break Through

NISSEY DELICA CORP.

あなたと夢を、ごいっしょに。

PanaHome

ビジネスを拡大させる大空間。

事業向け多層階住宅

VieunoPRO

<ビューノ・プロ>

パナホームは工業化住宅で最高*の7階建まで建築可能。独自の「ウルトラNS構法」により、荷重がかかる低層階にも大空間がつけれます。

*2015年12月パナホーム調べ。

パナホーム株式会社 〒560-8543 大阪府豊中市新千里西町1丁目1番4号 www.panahome.jp

友愛 ほんだな

パヤタスに降る星

—ごみ山の子どもたちから届きたいのちの贈り物—

*この本の収益の一部は、公益財団法人修養団を通じて世界の貧困に苦しむ子どもたちのために使われます。

あります。戦後、中国、満州から引き揚げる日本人が百万人も、葫芦島から無事に日本に戻ったのだそうです。洪副主任はこの事実を映画化して、日本人にも中国人にも、引き上げの際に起こったさまざまな美しい出来事を伝えたいと言うことでした。

北京理工大学での表彰式
午後には新幹線で北京まで行き、今回の旅程で最後の仕事として、北京理工大学のイベントホールでの、友愛奨学金授賞式を執り行いました。

で日本語を学んでいる学生たちに、川手理事の講演を聞いた後に「私にとって友愛とは」とのテーマで作文を書いてもらい、優秀な学生六名に奨学金を授与することを決めたのです。

みなさん素晴らしい日本語を話していました。彼女たちは必ず、日中友好の架け橋として大きな活躍をしてくれるのではないかと大いに期待しています。

「所変われば品変わる」と言いますが、今回ご紹介するのは本当にビックリし、しみじみと「所変われば」と思った品々です。

が鎮座していました。二つ目は、鶏の料理、固いパン生地のような皮に包まれて、一羽丸ごと蒸し焼きにした美味しい鶏でした。

機関紙『友愛』原稿募集
皆様のご投稿をお待ちいたしております。内容は、ボランティア活動の報告、地域の名物の紹介、季節のお便り等々、何でも結構です。ご自慢の写真も大歓迎です。皆様の『友愛』に奮ってご投稿ください。詳しくは事務局までお問い合わせください。

◆四月は小生にとって思いがけない激変の月でした。絶対と思っていた権威が眼前で瓦解し、想像もしなかったことが現実となり、目から鱗の落ちる変化にどう対処するのか。まさにヒラメキ百両の真価を問われる時でもありました。年々歳々、花相似なり。歳々年々「事」同じからず。人生、常に変化とチャレンジの連続ですが、そういう言葉をこれ程痛感した時はありません。ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。今こそ自らを究める時。「明鏡止水」（K）

◆今回の訪中の際、西安で直径八〇センチはあろうと思われる水晶の玉を見ました。私の故郷山梨県は水晶の産地ですが、流石に八〇センチの玉は見たことがありませんでした。とっさに石川啄木の「大いなる水晶の玉を一つ欲し それにむかひて物を思はむ」を思い出しました。でも八〇センチでは、かえって玉に吸い込まれそうで、逆効果かも。何事も過ぎたるは及ばざるが如しです。そんな事から帰って本箱から愛読書『一握の砂』を取り出し、ながめて見ました。たまに読み返すと自ら赤面してしまう様な書き込みもあります。が、十六歳の頃から半世紀私と共に居る本です。その時々を考え、心の動きが思い返されて、私の人生の一部、イヤ全部の記録かも知れません。活字になっている本の有り難さです。（も）

編集子は著者の山口千恵子さんを存じ上げている。どちらかといえば寡黙で、言葉の端々には芯の強さを感じて。いつもおしゃべりで活動的な着こなしに身を包み、素敵な女性というのが一番ぴったりする形容詞だ。それでいて、時折仕掛けるちよつとしたイタズラに、ニコッと女学生のような笑顔が溢れる可愛い人でもある。

医療廃棄物、動物の死骸までもが混じったおびただしいごみの山。しかしそこは、スカベンジャーと呼ばれるごみ山に暮す人々にとって、生活の糧を得る唯一の機会となっているのだ。ごみの山から売れる物を探す、大人も子供も必死になつて。そう聞くとあるいは、日本でもそんな時代があつたと思われ方もあるだろう。確かに、戦後まもなく、野原や、家屋の解体現場、工事現場などで、金目の金属（銅線・古釘）などを拾い生活の足しにしていた孤児も多かった。その後くず鉄を拾って小遣いにしていた子供たちもいた。しかし、パヤタスの状況はそれをはるかに上回る。食べられない子供の何と多いことか。

加えて、ゴミ山との因果関係は不明だが、障害を持つ子供が多く生まれている。そんな環境の中で、著者は出会った子供たちから多くのことを学んだ。

自らに問いかけながら。それは彼女自身の、純粋で美しい感受性に由来して一冊である。（編集部 H記）



著者：山口千恵子／文 葉祥明／絵
発行：中央法規出版 電話 03-3834-5815
体裁：A 5版 100頁 上製本
価格：¥1,500（税別）



硬いパンのようなものに包まれて焼かれた「泥棒鶏」。縦二〇センチ横三〇センチの巨大なサイズ



蓋を開けると、鶏一羽分が焼かれて、美味しそうな香りが漂います。実際美味しいローストチキンです



盛り合わせフルーツに堂々と参加しているキュウリ。味はちよつと青臭い昔のキュウリの味でした



鶴一羽の大きさはおよそ十五センチの立体。相当太い大根から彫刻していったのでしょ。見事！

- 時事川柳 服部迪夫 作
- 「時事川柳研究会」顧問 最過か
- 平成の京都遷都は文科省
- シヤラポア選手 妖精に何があつたかこの十年
- 五月病 ポケットに辞職願を忍ばせる
- CM効果 鉄道が一役買ったギネス入り
- 合格発表 胴上げと桜の蕾同居する
- 身売り 愛着が薄れてゆく白物家電
- パナマ文書 人間の見方をかえるパナマ便
- 前・本震 名城が二度の地震に呑み込まれ



◆四月は小生にとって思いがけない激変の月でした。絶対と思っていた権威が眼前で瓦解し、想像もしなかったことが現実となり、目から鱗の落ちる変化にどう対処するのか。まさにヒラメキ百両の真価を問われる時でもありました。年々歳々、花相似なり。歳々年々「事」同じからず。人生、常に変化とチャレンジの連続ですが、そういう言葉をこれ程痛感した時はありません。ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。今こそ自らを究める時。「明鏡止水」（K）